

## 教育委員会諮問事項に関する施設訪問（委員メモ）

### 【郷土博物館】

訪問日時…平成 21 年 4 月 19 日（日） 10:00～12:30

参加委員…並木班（並木委員・田村委員・西田委員・浦野委員）、川津議長、木村副議長、堀委員（以上 7 名）

### ■田村委員メモ

#### 1. 郷土博物館

\*展示スペースが限られている為に、展示品に制約がある。

（展示スペースが狭い→貯蔵品が展示できない）

展示内容を変更したいが、中々難しい面がある。

4 本柱（玉川上水、養蚕、歴史、中里介山）の展示品内容の再検討

\*来館者を増加したいがアクセスが悪い。

（大型バスが通れる道路となっていない。博物館から宮の下公園へ橋があるとよい）

\*小学 4 年生の来館が事業の一環で来館が多い

（他の年齢層の来館者を増やす為にイベント等を企画する。イベントする際には、「ゆとろぎ」にミニサンプル等を展示し PR をする）又、年間を通して来館者が大勢あるように、ネットワークの構築をはかる。（ボランティアの募集と活用）講座及び体験学習等企画し来館者の増加をはかる。

\*収蔵品のメンテナンス

スタッフに限りがあり思うようにいかないのが、現状である。

\*陳列品等の提供者への対策

提供された品々がすべて展示できないので、次につながらない。

### ■浦野委員メモ

#### 郷土博物館

ハイキング途中のトイレ利用、休憩所代わりに利用されている。

小学生；玉川上水（都水道の歴史資料としては、ピカイチと考えられる。）市内の小学生の利用が少ない。市外の小学生の利用が多い。授業での取り上げ方に問題。豊富な教材を使わない手はない。

歴史だけでなく、土木工学的な面でもおもしろい。理系離れを言われて久しいが、子ども達にわかる、話し方を工夫すれば、少しは興味を持つことだろう。

また中里介山の資料も、羽村がピカイチだろう。

その他、羽村市らしさをだすストックがたくさんあることがわかり良かったと思う。

ただこれらのストックをどう羽村にすむ人たちの実生活と結びつけ、アピール出来るかが、利用者を増やす鍵と思われる。

利用者ボランティアの組織化について、ガッチリした組織は、利用者の性格に合わないものがあるのかもしれない（こつこつ研究者タイプ e t c）緩やかな連帯のシステム作り。

とりあえず保管資料について。保管場所があるのならばそれもいいのですが、やがて場所もなくなることから、10年をめどに処分、保存の仕訳が必要では。

使いながら展示の方向、機織り機のメンテナンス。白杵食器などのイベント利用（防腐剤等の使用制限）

最後に、利用者アンケートの改訂、この辺りが部会の実務となるのでは？

---

## 【スポーツセンター】

訪問日時…平成21年4月19日（日） 14:00～15:30

参加委員…並木班（並木委員・田村委員・西田委員・浦野委員）、木村副議長、堀委員、石黒委員（以上7名）

### ■田村委員メモ

#### 2. スポーツセンター

年間稼働率が90%あり市民の活用場として有効に利用されている。

しかし、築28年経過しており、施設の劣化が激しく、満足な状態と言えない。

平成25年に国体が開催され、多少の整備が可能だが、満足のいく整備となるとは、限らない。経済情勢が厳しい中、いかに施設の改修・整備をしていくか課題が残る。

指定者管理制度の導入も視野にあるが、住民サービスの面から考えると、導入には、問題がある。（堀松課長談）

### ■浦野委員メモ

#### スポーツセンター

利用率という点では、問題ないわけだが、利用者数を増やすという点で、システムの改善が必要と思われる。

##### 1、時間帯貸しから、時間貸しに。

時間帯すべてを必要とする団体は、多くないと思う。空き時間にほかの競技も可能か？

問題点：団体間の切り替えに要する時間

たとえば前後15分ずつを切り替え時間

##### 2、公共スポーツ施設無償利用者の、無届けキャンセル。ほかに利用したい人がいるのに利用できない。

3、上記原因として考えられる取り消しシステムの煩雑さがあると思う。改善する必要がある。

4、スポーツ施設とゆとりぎ等文化施設の利用料金の差；団体にとっては、有料、無料の差は大きい。

## 【図書館】

訪問日時…平成 21 年 4 月 23 日（木） 10:00～12:15

参加委員…古川班（古川委員・渡邊委員・堀委員・石黒委員）、川津議長（以上 5 名）

## ■堀委員メモ

### 図書館

- ・コンセプト「ゆったりと読書が楽しめる図書館」
  - 「いろいろな形で情報が入手できる図書館」
  - 「人と自然にやさしい図書館」
- ・これから力を入れていきたい事業、（課題）
  - レファレンス事業
- ・利用者の傾向
  - 高齢者の利用が増えた。定年後の利用者が目立つ。
  - 主たる目的がなくヒマがあるので来館しているようである。
  - 広域利用により、他市の市民の利用も多い。
- ・利用率開館直後より利用は、減ってきている。近隣の図書館（あきる野市、青梅市）がオープンしていることも大きな要因。

◎コンセプトに合った事業ができているか？

◎利用促進について

○図書館まで足を運べない人へのサービスをどうするか？⇒現在条件付きで行っているが、サービスの見直しは行われているか。

○多摩川をはさんだ清流地区への取り組みはどうか？

- ・移動図書館のようなことは考えられないか。⇒郷土博物館との連携相互の利用度アップにつながるのではないか。

○商工会とタイアップして、町の情報コーナーを設ける。商工会で出しているお店の情報誌を置くことは可能か。

○図書の再利用は図られているが、最近は DVD の普及が目覚ましい。今後は、DVD の再利用も検討してはどうか。

（図書館主催では制約があるならば、ボラ団体で行ってはどうか）

◎図書館協議会が設置されるようであるが、協議会が設置されるのであれば、諮問されたような事柄は協議会で審議される内容ではないか、と感じた。